

教務だより

2015年12月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

最後まであきらめない！最後まで気を抜かない！！

茗溪塾塾長 宇野雅春

人間は弱いものです。楽しいことは何でも元気にやれるのに、やりたくないことや、興味のないこと、困難をとまなうものになると途端に意欲を失います。「受験」は誰も避けて通れないことなので、その取り組み方に個人差が生まれます…。

テーマパークでは夜中まで疲れを知らないで遊びまわられる人が、仕事や勉強になると、すぐに体調不良を訴えてくるなんてことは、今時当たり前のことのようにです。

たくさんの人の努力でより便利で快適な世の中ができてきて、「我慢する」ということが難しくなっているのではないかな？

そういいながら、世の中は厳しい格差社会、労働環境も良いとはいえず、自分のわがままで生きていくというのは、絶対無理な状況なのです。受験をクリアするのはそこで生きていく第一歩といえなくもありません。特別大変なことではなく、それにきちんと取り組めないことが問題なのです。でも、勉強を生活の中で習慣化できていないと、勉強自体がとて苦しく大変なことになってしまうのは理解できなくもありません。

12月に入って、受験学年はどの教室でもやっと受験の重要さに気がついてか、ほとんどの生徒が頑張り始めています。生活の中心に勉強があるということです。勉強が続くと人間の弱さがまたでてきます。いろいろ考え始めるのです。今まであまり考えていなかった人が「何のために受験するのだろうか？」とか「もっと大切なことがあるのではないかな？」など思い悩むことになります。状況が煮詰まるほど人は「考える」ものなのですが、実はそれが、現状から逃げる理由を探しているに過ぎないことだったりします。「人生って何なのか？」と考える人も出てきますが、今生きている、今受験に直面している、それが人生なのです。

ここは全力を尽くすこと、いろいろな誘惑を退けて、そのことに集中すること…。今まで勉強をいやいや中途半端にやってきた人ほど、大きな成果が出る場合があります。今まで1カ月かかったようなことが数時間でマスターできたりします。

逆にそれなりに頑張ってきた人が、急にやっていることに意欲を失ったり、家庭環境などに変化が生じて思ったように勉強が進まなくなったりすると、途端に成績がダウンし、勉強に身が入らなくなったりします。受験の最後は、学力もさることながら、精神的な強さが要求されるものなので、思わぬ「不合格」を招くことになります。

受験が近づいてきて、大切なことは、とにかく「必要な理解と知識」を前進させていくことです。わからないことを解決していくこと。いまは行動する時期。反省は「受験」の結果が出たときでいいのです。考えているうちに人生の選択肢はどんどん狭まり、「仕方なく〇〇する」ということになります。いざとなればそこで強く生きて行くということも大切なことでもあります。今はまだ自分の可能性を追いかけて行動する時だと思えます。